

平成 29 年度委員会活動成果報告会

2018-6-8
知的財産権委員会

知的財産権委員会紹介

【ミッション】

会員企業における知財部門のプレゼンス向上を目的とし、知財戦略の立案・実行を支援するための情報提供および交流する場を提供する。

知的財産権委員会

委員長	山田(イシダ)
副委員長	田中(大崎電気工業)
分野	知的財産マネジメント
参加企業	19社
開催	年間7回

実務研究会

主査	松本(アンリツ)
分野	知的財産実務
参加企業	7社
開催	年間9回

中期重点目標

- (1) JEMIMA知的財産権委員会でなければ得られない情報およびサービスを提供する。
- (2) 知的財産権委員会(親委員会)は知的財産マネジメントを主に取り扱い、実務研究会(下部組織)は知的財産実務を主に取り扱う組織と位置づけると共に、知的財産マネジメント研究活動を充実させる。
- (3) 海外での知財トラブルへの対処方法や現地の情報等を、可能な範囲で共有できるようにする。

2017年度の活動と成果



－ 特許庁との意見交換会 －

開催日：2017年9月15日(金) 15:00～17:00

特許庁出席者：審査第一部 計測 室長

審査第一部 計測 審査官 5名

審判部第一部門 部門長

委員会出席者：13名

目的

特許庁・会員企業の要望について議論し、関連分野の特許行政の円滑化と会員企業の利益向上を図る

議題

- (1) 特許庁の重点施策の説明
- (2) 第四次産業革命に対応して進めつつある制度・運用上の検討
- (3) IoT、AI関連技術について意見交換
- (4) 審判制度の概要の説明

成果

審査を担当する審査官に直接、意見・要望をぶつけられる場を提供できた。これはJEMIMA委員会ならではの提供の場である。

2017年度の活動と成果



— 他業種との意見交換会 —

開催日	: 2017年1月20日(金) 10:00~15:15
訪問先	: ヤマハ株式会社 掛川工場および本社
ヤマハ出席者	: 知的財産部員 5名
委員会出席者	: 10名

目的

知的財産の活用の面で先行している他業種企業との交流を通じて、JEMIMAの所属する分野における知的財産活用のあり方を考える。

内容

- (1) ヤマハにおける知財活動の説明
- (2) 意見交換

成果

模倣品対策など、BtoC企業ならではの知財の課題について直接意見交換ができ、非常に有意義であった。

2017年度の活動と成果



— 講演会 —

開催日 : 2018年2月26日(金) 15:00~16:30

講演タイトル: 『企業弁理士から見たIoTを巡る知財課題』

講師 : パナソニック(株) コネクテッドソリューションズ社 弁理士小林様

聴講者 : 当委員会:12名、他委員会:3名、特許庁:3名 計18名

目的

昨今話題のIoTについて、IoTデータの類型化、IoTデータの不正競争防止法・特許法・著作権法による保護及び契約による保護の限界・課題などについて学ぶ

内容

- (1) IoTシステムをどのように権利化したら良いか
- (2) IoTデータはどのように保護したら良いか
- (3) IoT標準規格を使用する際に留意すべきこと
- (4) IoT時代の計測器と知財の役割 など

成果

会員企業のニーズに応えられるテーマを選定でき、満足度の高い講演会ができた。

2017年度の活動と成果



－ 委員会内での情報交換会 －

そのときの旬な話題(知財教育、職務発明制度)をテーマに挙げ、まず委員会参加企業に話題提供を行ってもらった後、委員会内で情報交換を行った。

テーマ:「非開発部門向け知財教育の各社の取り組み」

テーマ:「発明規定と評価について」

成果

他企業の状況を直接聴きたいという会員ニーズに応えることができた。

2017年度の活動と成果



－ 実務研究会 －

目的

日常の知財実務上で発生した疑問点・問題点、知財に関わる時事のトピックスを研究テーマとし、調査・発表・質疑応答を通して、活きた知財知識を得ること、及び実践的な知財の考え方を理解する。

活動 開催回数：9回

研究テーマ：12テーマ、委員長講演：1回、特許権無効審判 審判傍聴：1回

研究テーマ	
共同研究開発契約について	交渉学について
クレームチャートについて	発明の日特集記事紹介
情報検索について	選択的情報配布(SDI)システムについて
明細書翻訳について	FRAND特許について
特許明細書の「課題」と「効果」の関係について	「発明塾」の紹介
IPランドスケープについて	特許庁との意見交換会資料の紹介

成果

他社の知財に関する具体的事例を知ることができ、自社での経験と併せて、実務で使える知財知識を得ることができた。

1年間の委員会活動を通して

【成果】

今年度は、委員会内外での意見交換(情報交換)に力を入れてきた。特許庁との意見交換会、他業種との意見交換会、講演会、委員会及び、実務研究会内の情報交換を通じて、会員企業内で情報(経験)の共有が図れ、自社の知財戦略を立案・実行する際に役立った。これは、JEMIMA委員会でなければ得られない情報(サービス)であり、その場を提供することができた。

また、先端技術調査委員会と合同で講演会を開催したり、当委員会主催の講演会にIoTイノベーション推進委員会のメンバに参加いただくことによって、当委員会参加企業以外とも活動の成果を共有することができた。

【課題】

- ・特許庁・他業種との意見交換会などに時間を取られ、「海外での知財トラブルの対処方法」を実施することができなかった。
- ・意見交換(情報交換)を通じて、その都度、会員企業のニーズを取り入れてきた(つもりだ)が、なかなか委員会の出席人数が増えない。

2018年度の主な事業

1. 情報・サービス提供事業
 - (1) 特許庁審査・審判部門との意見交換会
 - (2) 講演会
 - (3) 他業種企業等との意見交換会

2. 知財マネジメント研究事業

3. 知財実務研究事業

4. グローバル化への対応サポート事業